



日野祭を紹介する日野観光協会のホームページはこちら



日野祭は古き儀式と慣例を今なお引き継いだ850年以上の歴史を持つ、湖東地方最大、馬見岡綿向神社の春の例大祭です。「日野曳山祭」の名称で県の無形民俗文化財に指定されています。

毎年5月2日に宵祭り、3日に本祭が行われ、神子(稚児)・神調社(神子の警護役)を先導として、みこし3基を中心とする渡御の祭礼です。日野祭には江戸時代中期から末期に造られた16基の曳山が現存しています。年によって本祭に

■ 850年以上の伝統 日野祭 (日野町)

曳山巡行 迫力の方向転換



渡御の行列を先導する神子と神調社一いずれも日野町村井の馬見岡綿向神社で



最高潮を迎える日野祭

出される数は多少変わりますが、境内に曳山が並ぶ姿は壮観です。巡行中、曳山の車輪を浮かせて方向転換する「ぎんぎり回し」は見どころの一つです。重さ2トを超える曳山が勢いよく回転し、観衆を沸かせます。綿向神社への宮入後、曳山天場(屋上)に時代を取り入れた「だし」といわれる人形が飾られることも日野の曳山の特徴です。

曳山には木彫刻、飾金具、装飾幕など、美しい装飾が施されています。組物や欄間、唐破風屋根回りに施された彫刻や、漆塗りに金色の色彩をちりばめた柱などが豪華さをよりいっそう引き立てます。また、細密な彫金技術で作られた飾金具、美しい文様が織り出された蝦夷錦の幕や、日野町ゆかりの画家が描いた下絵をもとに作られた刺しゅうの幕などが、曳山を華やかに彩ります。絢爛豪華な

曳山が造られた背景には近い江日野商人の豊かな経済力を感じることが出来ます。曳山の巡行にかかせないのが祭りばやしです。笛、大太鼓、小太鼓、すりかねを用い、バカバヤシ、ヤタイ、オオマといった曲目テンポの速い曲が多いことから祭りばやしの源流は関東ではないかと考えられています。近江日野商人が活躍した江戸時代、日野と関

東各地の出店地を往復していたことにより、関東の祭りばやしを採り入れたのではないかと推測されています。4月になると各町内の会議所からはおはやしが聞こえてきます。間もなく日野は祭り一色に染まります。

(日野観光協会・池内明彦)

◇ 【アクセス情報】日野祭 (馬見岡綿向神社) へはJR近江八幡駅または近江鉄道日野駅から日八線北畑口行バス向町(臨時停留所)下車、徒歩3分。5月3日は交通規制の実施にともない臨時停留所をご利用ください。車は新名神高速道路甲賀土山インターチェンジ(IC)、名神高速道路八日市ICより約20分。5月2、3日は交通規制が実施されるのでご注意ください。(日野観光協会)0748(52)6577



これまでの「しが旅のススメ」はこちら